

第163号 発行日 平成22年7月2日

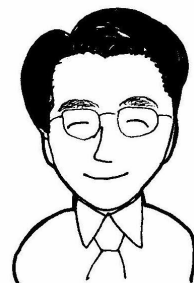
# 合格通信

今  
月  
の  
名  
言

我らは過去の間人から受けとつたものに  
我らの精神と労働とを加味して  
未来の間人に渡すものである

武者小路 実篤  
(小説家)

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせいただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。



## 黒澤明の全貌

オールナイトで黒澤映画にはまってから、情報誌「ぴあ」で黒澤作品を上映している映画館をしらみつぶしにチェックして、学校休んででも行ってました。当時VHSビデオは存在していたのですが、ビデオレンタル店がなかったのです。レンタル店が急激に出店し始めたのは84~85年ごろだったと思います。製品版のVHSテープは2万近くしましたのでとても買えません。ですから名画座かTVで観るしかなかったのです。それでもマイナーな初期作品などは滅多にかからなかったので、巣鴨の三百人劇場(2007年閉館)で「黒澤明の全貌」として「姿三四郎」から「乱」までを一挙上映するというこの企画を知ったときは「ようしいくぞお」となったのは言うまでもありません。通いました。このとき観たものは「一番美しく」「わが青春に悔いなし」「素晴らしき日曜日」「白痴」「羅生門」「七人の侍」「蜘蛛の巣城」「どん底」「隠し砦の三悪人」「悪いやつほど良く眠る」「天国と地獄」「どですかでん」「デルスウザーラ」「影武者」「隠し砦~」など2回観ました。これだけ観れば、黒澤作品すべて観たことになります。友人に「これで黒澤作品制覇したよ」というと「おお、それはひとつの偉業だよ...偉業?その後あっちこちで自慢してました。



「七人の侍」を観に行ったときの話です。巣鴨駅に降りると、小腹が減ったのでどこかないかと探してみる吉野家発見。注文して店員のお兄さんが「お待たせしました」とどんぶり差し出そうとした瞬間、手がすべってか小生のジーパンのひざに牛丼ぶちまけ。「すみません」と一生懸命拭いてくれましたが(おいおいどうしてくれんだよ)詰め寄ろうか?と内心思いながら、作り直してもらった牛丼を食べ終わり会計するとき「あ、御代は結構です」「あ、そっすか」得したのかどうか、まあ、こんなジーパン洗濯機で洗えばいいことなので(得したか)と納得して牛丼臭いジーパンのまま映画館へ。

「七人の侍」は黒澤のベストワンに推す人も多い代表作ですが、もともと録音が良いというえ、三百人劇場の老朽化したスピーカーは聞こえにくさを倍増し、ゴモゴモで何を言っているのかさっぱりわからず。(これじゃ字幕が必要だろ)と最後までしらけきっていました。ここでも映画館に文句言おうかと思いましたが、牛丼、映画といい、ふんだりけったりの1日でした。